



近藤ゆかり市議会通信

いつも大変お世話になっております。令和 3 年は新型コロナウイルス感染症が収束し、皆様にとってより良い一年となることをお祈り申し上げます。

さて、令和 2 年は公約として掲げた「介護人材確保」「次世代育成」「議員定数削減」を中心に、新たな政策課題にも取り組んだ 1 年でした。

まだまだ未熟で反省することばかりですが、地道にかつ誠実に活動していきたいと思っております。引き続き宜しくお祈り申し上げます。

柏崎市議会議員 近藤 由香里



1、議員定数の削減が決定 26 人→22 人へ



令和 2 年 12 月定例会議最終日、柏崎市議会議員の定数 26 人を 22 人とする条例改正案が提出され、賛成多数（16 人）で可決されました。

また修正案（23 人）も提出されましたが、賛成少数（10 人）で否決されました。次の選挙（令和 5 年 4 月）から定数 22 人となります。

私は会派「民友」を代表して原案（22 人）賛成・修正案（23 人）反対の討論を、以下の趣旨にて行いました。

今年 8 月から始まった議員定数議論について、会派として以下の視点にて検討を行いました。

- 将来の人口動態を鑑み、10～12 年後を見据えた考え方が必要。
- 様々な ICT ツールを活用すれば、広報広聴機能や活動量の低下は防げる。
- 事業峻別を行わざるを得ない柏崎市の厳しい財政状況、そして市内経済の疲弊。
- 他市の事例や学識経験者によれば、委員会審査は 6 人いれば成り立つ。
- 柏崎市議会では平成 31 年当時、既に 22 人で審査した実績（*）がある。

（*平成 31 年 2 月定例会議の議員数は 22 人）

これらを踏まえ「20～22 人でも議会機能を維持できる」との結論に達した為、「定数 22 人」とする原案に賛成します。

議員自ら身を削る選択をすることは、多くの市民が望む議会の姿であり、平成 29 年 8 月に「柏崎市議会議員定数の適正化を求める請願」を提出（*）した私にとっても感慨深いことです。

（*一市民として議会に問題提起したものの、現状維持と削減で意見が分かれたまま議論終結）

定数削減によって、議員一人ひとりの仕事や責任はこれまで以上に大きくなると思いますが、そうであっても市民の負託に応える覚悟を持って、時代の変化に対応し得る議会にしていくことが、私達の使命ではないでしょうか。

平成 22 年 6 月議会で現在の定数 26 人に改正されて以降、削減案が 5 回提出（平成 26 年 9 月、12 月、平成 27 年 6 月、平成 30 年 9 月、12 月）され、すべて否決されてきました。今回の結果はこれまでの先輩議員達のご尽力と、市民の皆様の願意＝「民意」によるところが大きいと感じます。討論で述べた「使命」を果たすべく、まずはひとりの議員としてより一層、精進したいと思っております。

柏崎市議会映像配信（令和 2 年 12 月 22 日）でご覧いただけます。➡



2、介護人材確保が市の重点政策に

初当選以来「介護人材の確保」をライフワークとして取り組んでいます。

柏崎市議会映像配信（議員別） 



これまでの一般質問

●現場に光を当てた介護人材の確保

夜勤対応者手当増額補助の周知

仕事に対する理解促進

子育て支援との連携

●介護現場を支える人材・ツール活用策

アクティブシニア・ICT・外国人の活用

学校教育における理解促進・人材育成

●若い力を介護現場へ

若い介護従事者によるキャリア教育推進

●これからの介護がめざすところ

介護崩壊の防止

介護現場の新型ウイルス対策支援

●介護現場におけるBCP（事業継続計画）

災害・感染症対策の支援

夜勤対応者手当・増額補助の継続

●豊かな高齢化社会実現に向けた介護者支援

介護者支援の周知と充実

在宅介護への備え

介護未経験者の新規就業支援



櫻井市長 2 期目の公約の中で「特別養護老人ホーム待機者半減を目指し、介護従事者確保にますます注力する」として、何度も訴えてきた**夜勤対応者手当・増額補助の継続**をはじめ、**介護の仕事に誇りを持てるようなアプローチ**を行うことが示されました。（令和 2 年 12 月一般質問答弁より）

引き続き調査研究を続け、現実的な質問・提案を行ってまいります。

3、次世代のため、持続可能な柏崎市をめざして

令和 2 年後半は下記の一般質問を行いました。今後も課題解決に向けて取り組んでまいります。

●原発財源の現状と柏崎市の将来像（9 月）

原発財源は市民生活に欠かせない歳入（一般会計の約 15%）であり、他の同規模人口の自治体よりも恵まれた予算編成ができています。

原発財源により防災、医療、福祉、子育て、教育、産業を支えている現実を、市民の皆様にはご理解いただきたい。（市長）

●市町合併の総括とこれからの市政運営（12 月）

柏崎市が西山町・高柳町と合併して 15 年、主な公共サービスの基盤整備は完了したが国の特別な財政措置も今年度で終了する。

今後は中山間地や過疎地域の課題解決に取り組み、ますます一体感ある市政運営をめざしたい。（市長）

●核燃料サイクル推進のために（12 月）

核燃料サイクル推進なくして柏崎市の原子力行政は成り立たない。国に強く訴えていく。また核燃料サイクル最終行程である「高レベル放射性廃棄物最終処分場」の候補地となった、北海道寿都町・神恵内村の両首長の勇気ある決断に心から敬意を払う。（市長）



近藤ゆかり後援会（後援会長：青木理絵）

事務所）〒945-0063 柏崎市諏訪町 1-29 TEL）090-4534-9982

FAX）025-333-4724 メール）yurikadou@nifty.com



← **公式サイト** <https://yurikadou.com/>

日々の情報を発信しています。ご相談等ありましたらご連絡ください。

facebook

